

家族福祉論・家族ソーシャルワーク論への関わりと歩み

—映像・小説で理解する現代家族と家族福祉問題—

佐々木政人

Reviewing Educational Methods of Family Social Work

—Understanding Family Problems & Issues through Movies and Novels—

Masahito Sasaki

要旨：筆者が本格的に、『家族福祉論』の科目担当になったのは、1990年（平成2年）、日本社会事業大学であった。その後龍谷大学社会学部臨床福祉学科を経て、愛知淑徳大学福祉貢献学部での授業に至る。なお、本科目は2016年度の本学のカリキュラム変更で、社会福祉専攻の科目としては、閉講となっている。本研究ノートでは、この閉講を機に、筆者のこれまでの歩みと今後への提言を意図し、その内容を整理したい。本論で活用する主要な理論と技法は、（1）家族ライフサイクル論（ライフコース論を含む）、（2）家族力動・コミュニケーション論、（3）危機論&家族二重ABC-X論、（4）各種家族・地域マッピング技法である。本科目では、こうした3つの家族理論を包括的に統合するアプローチ法として、日本でも定着しつつあるジェネラリスト・ソーシャルワークアプローチに依拠する。

Keywords： ジェネラリストソーシャルワーク 家族ライフサイクル論 家族力動・コミュニケーション論 家族2重ABC-X論
Generalist Social Work; Theory of Family Life Cycle; Theory of Family Dynamics and Communication; Theory of Family ABC-X

1. 家族福祉論・家族ソーシャルワーク論：理論的背景との出会い

筆者が、家族福祉論に関心を持った時期は、京都国際社会福祉センターでの援助専門職講座をはじめ、実践的訓練を基盤にしたソーシャルワーク実践プログラムとの出会いであった。その後1981年、留学の機会に恵まれ、コロンビア大学スクールオブソーシャルワークに在籍する。ソーシャルワーク実践論では、マイヤー、C.（個別援助論）、ギッターマン、A.（グループ援助論）、マクガワン、B.（組織援助論）他からの貴重な学びに感謝している。また、当時日本でも関心の高まりを見せていた家族療法との対峙は鮮烈であり、ミニューチン、S.とのニューヨークでの出会いと学びは、筆者の理論的基盤ともなっている（佐々木、2019）。授業では、こうした家族福祉論、家族ソーシャルワーク、家族療法等を統合的に、教材として効果的に組み込み、学生に提示するかが課題であった。本論で活用する基礎理論は以下のとおりである：

(1) 家族ライフサイクル論 (パート I で取り上げる)

個人には、成長に伴うライフサイクル上の変化がある。家族にもその生活上の出来事、変化、サイクルが存在する。家族の生活上の変化と段階を理解する過程は、家族の持っている潜在性と脆弱性をともに理解するためには重要である。家族問題の発生から支援の輪を構築していくための基本条件である。マクゴールドリック, M. やカーター, B. の家族ライフサイクル理論は、学生が理解しやすい教材としての確である (Sheafor, B. W., Horejsi, C. R., & Horejsi, G. A., 1994)。

(2) 家族力動・コミュニケーション理論 (パート II で取り上げる)

今日の家族は、社会の変貌に伴い、その構造と機能を恒常的に変容させてきている。家族形態の変化は顕著であり、その家族状況への影響は必須である。家族関係性の力動をはじめ、コミュニケーションパターンの変化はもちろん、家族内における役割、地域社会との関係性の構築など、多様な影響を受けている。家族問題の原因や面談技法、対応技法のあり方にも新たな方法論が要請されている (Sheafor, B. W., Horejsi, C. R., & Horejsi, G. A., 1994, pp. 297-298)。

(3) 家族危機理論：2重 ABC-X 理論 (パート III で取り上げる)

家族ストレスおよびその危機に関する理論の提示、さらには支援のネットワークづくりへの関心を構築、高める作業は、家族福祉論や家族ソーシャルワークの授業展開では必須である。授業では、家族危機理論の古典ともなりつつあるマッカバンMcCubbinの家族 2重 ABC-X 理論を取り上げ、枠組みを提示し、その重要性を強調する (石原邦雄, 2000 及び MaCubbin & Patterson, 1981)。

(4) 家族・地域関係マッピング技法 (パート I からパート III で、適宜取り上げる)

家族の歴史や居住地の歴史を知ることは、貴重な家族援助の基本である。いろいろな出来事を体験している家族を理解し、対峙した出来事をどのように「体験したのかの語り」を聞くことをとおして、家族の心情を理解する。対象家族やその居住する地域社会の状況と背景、さらにはその潜在能力を知ることは重要である (Sheafor, B. W., Horejsi, C. R. & Horejsi, G. A., 2008)。

①家族ジェノグラム：家族構造と家族の関係性に焦点を当て、家族の体験したライフイベント等の歴史を理解し、家族問題の原点や発生パターンを把握するための家族関係図である。

②地域・文化的ジェノグラム：家族が生活をおくる環境・文化的背景図であり、家族が生活する地域社会の出来事をはじめ、自然災害等の地域社会全体が体感する「喜怒哀楽」や「頑張り」の歴史を内省する地理的・社会関係図である (Rigazio-DiGilio, S. A., et al., 2005)。

③エコマップ：エコマップは、個人とその家族メンバーが生活する社会的状況を理解するためのマッピング技法である。ハルトマン, A. によって考案され、家族ソーシャルワーク実践にとって必要不可欠の方法論として活用されている。今日多くの実践家によって改良され、いろいろな形で支援の根幹となっている。実際の授業では、上記の理論的家族理解を基本に、適宜その理論と支援技法を提示する (Hartman, A., 1979, pp. 33—49)。

全体的な授業スケジュールは、後述する表 1、表 2、表 3 のとおりであり、パート I：家族と出会う 1 (異性交際と結婚をめぐる家族課題)、パート II：家族と出会う 2 (出産と子育てをめぐる家族課題)、パート III：家族と出会う 3 (子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題) の 3 部構成としてきた。

2. 家族福祉論・家族ソーシャルワークの概要・内容・流れ

前任校，龍谷大学社会学部では，家族ソーシャルワーク論Ⅰ＆Ⅱとして出発した当初は，前期，後期科目として，30回にわたる授業日程で設定され，授業プログラムの展開をしていた。最終的には，2006年度，愛知淑徳大学福祉貢献学部へ奉職するに至り，その後，半期科目（15回）での授業設定となった。科目名は，家族福祉論である。サブテーマとしては，21世紀の社会と家族（家族ドラマをとおして学ぶ福祉援助）を掲げている。

講義内容は具体的には，以下のとおりである。本科目では，現代家族が抱えているさまざまな福祉課題やニーズを分析し，社会生活上の問題に対する家族援助の技法を学ぶ。問題分析の枠組みは，ライフコース論並びにライフサイクル論を軸に，個人や家族が日常の生活で直面する生活課題と家族危機を探求する授業内容としている。取り上げる生活課題は，結婚，出産，子育てをはじめ，親子間・夫婦間コミュニケーション，離婚，老親介護，その他である。講義方法としては下記のように設定し，かつ授業は家族をテーマにした映画，ビデオ，文学作品なども教材として導入活用している。講義形式のクラス運営ではあるが，履修者参加型の形式を大切にしている。

(1) パートⅠ：家族と出会うⅠ（異性交際と結婚をめぐる家族課題）

パートⅠでは，グループプロジェクトの運営を効果的に実施するための班作りを基本とする。理論的理解の展開は，異性交際と結婚までの家族生活に関連する事項を主要課題とした。授業で活用する映像作品は，『カーラの結婚宣言』（監督：ゲーリー・マーシャル監督）である。知的発達遅滞を抱えながらも力強く生きる青年らの結婚と家族課題を取り上げている。主人公であるカーラをダイアン・キートンが好演している。

表 1：家族福祉論日程

パートⅠ	
家族と出会うⅠ：異性交際と結婚をめぐる家族課題（4月14日～5月19日）	
日程	授業内容
①04月14日	講義内容の紹介（グループメンバーの構築と授業課題の提示）
②04月21日	家族ライフサイクルと家族課題Ⅰ（自立・自律&結婚）
③04月28日	映像をとおして学ぶ恋愛と結婚 （候補作品「カーラの結婚宣言」或は「花嫁のパパ」） 家族ライフサイクルマトリックス&家族・地域社会ジェノグラム等の書き方を学び，登場人物を各種のマッピング技法等で可視化し，整理する
④05月12日	課題映像から家族問題を学ぶ：課題チャート等で家族問題を整理する &グループ発表の準備をする
⑤05月19日	課題映像からの学びを発表する
注1) 5月19日（月）：グループ課題レポート及び個人課題レポート提出	

人生・家族課題を豊かに理解するための教材資料としては、シェーファー、B.W. 及びマクゴールドリック、M. 等が整理した家族ライフサイクル論を活用し、その課題と対応方法を充実する契機としている。援助技法、特に人生・家族問題の整理とアセスメントには、ライフサイクルマトリックスをはじめ、家族ジェノグラム法も提示する。パート I の具体的なクラス運営は表 1 のとおりである。

マクゴールドリック、M. は、家族ライフサイクル論を提示している。家族ソーシャルワーク支援を展開するにあたり、主要な基礎理論として重要である (McGoldrick, M., Carter, B. & Preto, N., 2011)。家族の現在置かれている発達・成長段階の把握は、家族のストレスや問題を理解するための基本要件である。家族成員がそれぞれ持っている役割期待、家族課題、家族構造の変化の的確なアセスメントは、次の支援プログラムを立案する上で有用であることを強調する (Sheafor, B. W. & Horejsi, C. R., 1994 & 2008)。

本セクションの学習上の課題は、以下のとおりである。原家族と生殖家族との間のヤング・アダルト期が抱える家族課題を考える。家族からの自立と自律の課題にどのように対峙し、その課題を乗り越え、結婚生活への入り口を発見する時期である。パートナーとの出会いを契機に、職業、経済的自立が重要な人生課題である。

表 2：ライフサイクルマトリックス (映画：カーラの結婚宣言登場人物; テイト家の人びと)

家族メンバー	発達段階および身体的・心理的・社会的発達課題								
	0-1	2-4	5-7	8-12	13-17	18-22	23-34	35-60	60+
カーラ 三女 (主人公)					×				
エリザベス (母)								×	
ラドリー (父)								×	
ヘザー (長女)							×		
キャロライン (次女)						×			
ダニエル (カーラの恋人)					×				
ウイニー (テイト家のお手 伝い)								×	

Sheafor, B. W. & Horejsi, C. R. (1994 & 2008). Techniques and Guidelines for Social Work Practice. MA: Allyn and Bacon, p. 277 を活用し、課題映像である『カーラの結婚宣言』の登場人物を整理する。

上記のライフサイクルマトリックス及びライフサイクル上の生活課題（家族成員それぞれの課題分析シート）の提示は重要である。シェーファー, B.W.らによれば、家族生活課題をアセスメントするには、家族構成員それぞれのライフステージ上の段階、およびその身体的、心理的、社会的な発達課題の理解は必須となる。両親、子ども、祖父母、さらにはその他同居する各家族メンバーの発達課題は、個別的であり、各家族成員それぞれの生活課題と密接に関わりを持っていく。援助者はその異なる課題に沿いつつ、かつその理解を深めることは重要である。本家族ライフサイクル表は、その一助となる (Sheafor, B. W. & Horejsi, C. R., 1994 & 2008, p. 277)。

家族のライフサイクルマトリックスを基礎に、各家族メンバーが抱えている課題を整理することも必要である。家族メンバーのそれぞれの生活課題リストは、例示のとおりである。

表 3：ライフサイクル上の生活課題（映画：カーラの結婚宣言登場人物；テイト家の人びと）

家族メンバー	テイト家の人々が抱えている身体的・心理的・社会的発達課題
カーラ 三女 (主人公)	発達障害の課題を抱えながら、全寮制の初等・中等教育を終了し、家族への再会、再統合への努力をしている。家族からの自立と自律の課題に挑戦し、専門学校で知り合った恋人ダニエルとの交際、葛藤、そして結婚という人生課題に取り組んでいる。
エリザベス (母)	3人娘に恵まれ、歯科医の妻として、子どもの養育・教育にも最善の努力をしてきている。知的な発達障害を抱えている三女のカーラの教育方針では、夫であるラドリーとの意見の相違にも対峙している。
ラドリー (父)	歯科医であり、地元の名門家族の地位を築いている。子どもたちの教育は、妻であるエリザベスに任せっきりの様子ではあったが、子どもたちの意志を尊重する民主的な一面をも持ち合わせている。
ヘザー (長女)	ニューヨークの出版会社で、キャリアを積み重ねている長女である。テイト家の長女として期待されている。恋人は同性（女性）である。同性婚を認めて欲しいが、家族からは反対されている。特に母親であるエリザベスからの反対に苦しんでいる。
キャロライン (次女)	地元の大学で、教育学を修め、同級生である恋人との結婚をひかえている。彼女の進歩的な考え方が、時として、心配性の母親と意見の衝突を発生させている。
*ダニエル (カーラの恋人)	地元の専門学校生で、知的な発達障害の課題を抱えている。新学期の科目履修のために学校に登校し、偶然、本物語の主人公であるカーラと出会い、交際を開始する。
*ウイニー (テイ ト家のお手伝い)	長年、テイト家の一員として、家族の生活全般をお世話している。カーラをはじめ、テイト家の人々から愛され続けている貴重な存在である。

Sheafor, B. W. & Horejsi, C. R. (1994 & 2008). Techniques and Guidelines for Social Work Practice. MA: Allyn and Bacon, p. 277 を活用し、『カーラの結婚宣言』の登場人物を整理する。

表 4：個人課題整理表の例（パート 1）

個人課題（異性交際と結婚期） 氏名： 学籍番号：

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">生活課題 1：</div> 具体的状況	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">生活課題 2：</div> 具体的状況
対応策	対応策
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 60%;"> あなたが () であった場合 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">生活課題 3：</div> 具体的状況	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">生活課題 4：</div> 具体的状況
対応策	対応策

(筆者がクラス運営のために作成する.)

なお蛇足ながら、パートⅠ（異性交際と結婚期）、パートⅡ（出産と子育てをめぐる家族課題）、パートⅢ（子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題）まで、前述の各課題表の構成要件は同じであるが、各ステージ、映像ごとにその具体的な内容は異なる。

学生に提示、紹介する参考文献は以下のとおりである：

①望月嵩（1996）「現代家族の結婚と家族（pp. 2-14）」「結婚と家族の発達（pp. 15-25）」「青年期の異性交際（pp. 74-85）」「配偶者の選択（pp. 86-97）」「結婚と新婚期の家族（pp. 98-107）」『家族社会学入門』培風館

②岡堂哲雄（1992）「家族ライフコースと発達段階（pp. 85-96）」『家族心理学入門（岡堂哲雄編）』培風館

③柏木恵子（2003）『家族心理学』東京大学出版会

④倉石哲也（2004）『家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

⑤酒井朗・菅原ますみ・青木希久代（2007）『子どもの発達危機の理解と支援』金子書房

⑥宮本和彦（2007）『臨床に必要な家族福祉』弘文堂

⑦秋山邦久（2009）『臨床家族心理学』福村出版

⑧氏原博・杉原保史（2000）『臨床心理学入門』培風館

⑨中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（2008）『家族心理学』有斐閣

⑩永田夏来・松本洋人（2017）『入門家族社会学』

⑪早樫一男（2016）『対人援助のためのジェノグラム入門』中央法規

⑫木下謙治・保坂恵美子・園井ゆり（2008）『家族社会学』九州大学出版会

⑬D. W. ウニコット（1990）『赤ちゃんはなぜなくの子どもと家族とまわりの世界（上）』猪俣丈二（訳）星和書店

⑭D. W. ウニコット（1990）『子どもはなぜなくの子どもと家族とまわりの世界（下）』猪俣丈二（訳）星和書店

⑮加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾（1987）『家族精神医学3 ライフサイクルと家族の病理』弘文堂

⑯加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾（1987）『家族精神医学4 家族の診断と治療・家族危機』弘文堂

⑰加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾（1989）『家族精神医学5 家族精神医学の基礎理論』弘文堂

⑱井原成男（2009）『ウニコットと移行対象の発達心理学』福村出版

⑲三宅直子（1998）『あなたも書けるシナリオ術』筑摩書房

⑳大類雅敏（1993）『文章の作り方』ぎょうせい

(2) パートⅡ：家族と出会う 2 (出産と子育てをめぐる家族課題)

パートⅡでは、出産と子育てをめぐる家族課題の整理と理解を中心に、家族理論としては、家族力動論と家族コミュニケーション論を主軸に授業を展開する。クラスで活用する映像作品は、『誰も知らない』(監督：是枝裕和)である。現代社会の一場面として今日注目されている、児童虐待であるネグレクトの問題を取り上げた映像である。俳優柳楽優弥は本作品で、2004年、第57回カンヌ国際映画祭最優秀男優賞を獲得している。作品は非婚家族の子育て・養育破綻の問題を取り上げている。

本セッションのテーマは、結婚以降の子育て課題に焦点を当てる。パートナー・夫婦システムの構築を基盤とする子育て環境をどのように整備するかが課題となる。こうした生活課題の変化と適応課題との対峙をとおして、家族メンバー間における『家族力動と家族コミュニケーション』がいかに重要であるかの理解と学びに焦点を当てる。

表 5：家族福祉論日程

パートⅡ	
家族と出会う 2：出産と子育てをめぐる家族課題 (5月26日ー6月23日)	
⑥05月26日	家族ライフサイクルと家族課題 (出産と子育て・教育) 家族力動と家族内コミュニケーション
⑦06月02日	映像をとおして学ぶ出産と子育て (候補作品「誰も知らない」), ライフサイクルマトリックスで登場人物を確認する。それを各種のジェノグラムで整理する。エコマップの紹介と書き方を再提示する。対象家族が地域社会でどのように生活課題と直面しているか、また地域社会との関係性をどのように構築しているかを学生がより視覚的に把握し理解できるように整理する。
⑧06月09日	課題映像から家族問題を学ぶ：課題チャート等で家族問題を整理する&グループ発表の準備をする (表4を参照)
⑨06月16日	自由グループ研究 発表の整理&練習 (グループ学習)
⑩06月23日	課題映像からの学びを発表する
注) 6月29日 (月)：グループ課題レポート及び個人課題レポート提出	

家族システムの多様性は、近年の世帯構成の変化にともなって、複雑化しているといえる。現代日本における家族システムも、世界の家族システムと同様に大きな変化を体験している。晩婚化や生涯結婚を選択しない個人の増加、子どもをもたない家族形態を選択する夫婦 (ディングス家族)、別居夫婦、離婚夫婦、再婚家族 (再婚にともなう混合家族)、同性婚家族は、多様化する現代社会における家族形態の一例である (図1：ジェノマップの例)。

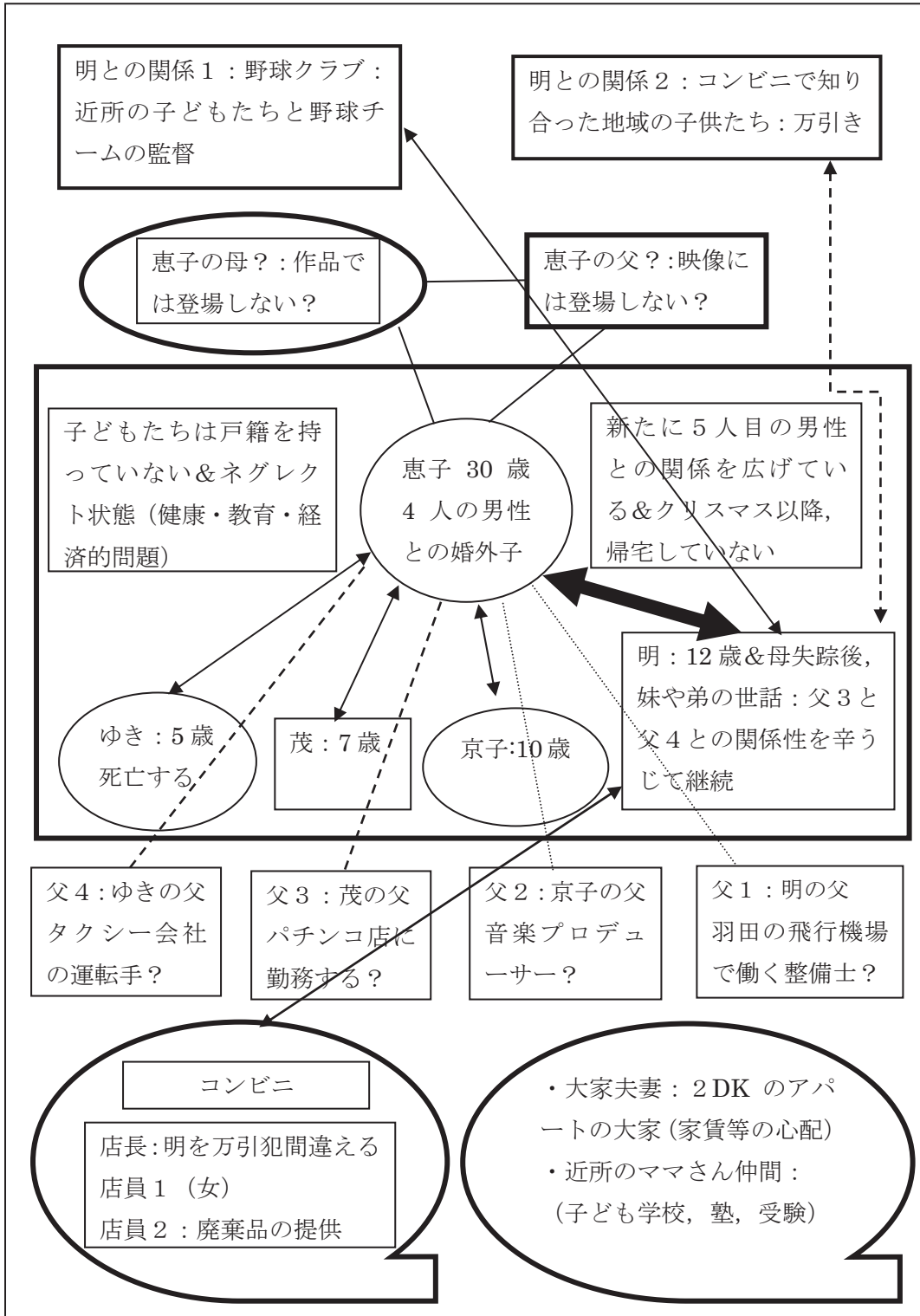
社会的な問題に関心を寄せる各種の援助専門職はこうした状況を念頭に入れた支援計画を立案しなければならない。どのように家族メンバーや、そのシステムが構築されているか、あるいは地域社会との関連性の理解は重要である。シェアファー、B.W.らによれば、家族システムの理解には、以下の項目が役立つとしている (Sheafor, B. W. & Horejsi, C. R. , 1998 & 2008, pp. 292-297)。授業では、このような視点を持つことの意義や意味を、事例研究をとおして、体験的に理解できるように教材を工夫する必要がある。

表 6：家族システム・家族機能を理解するための基本原則

1. 家族構成員をどのように規定するか：
誰が生物学上の家族成員か、誰が法律上の家族成員か（婚姻、離婚、子どもの親権など）
2. 家族の現状とはどのようになっているか
3. 家族は地域コミュニティによってサポートされているか
4. どのように通常の家族機能が遂行されているか
5. 家族間の相互作用に影響する領かい（バウンダリー）、下位システム、規則、役割とはどのようになっているか
6. 家族システムに、それぞれの家族成員がどのくらい良く溶け込んでいるか
7. どのような倫理観をその家族が持っているか
8. 家族は、人間がコントロールできない神秘性、宗教性、精神性に対し、家族はどのような視点を持っているか
9. どのように家族は意思決定をおこなうか
10. 家族全体の情緒的雰囲気を把握すること
11. 意見などの食い違いの問題をどのように家族が、処理しているか
意見の食い違いはよく現れる家族現象である。その処理の方法も家族によって異なる。
12. どのくらい家族の成員が各自の期待やニーズを明確に相手に伝えられるか
13. 家族内のコミュニケーションの把握：
誰が誰と話しをするか？ 誰が最初に話をするか？ 誰が反応するか？ 誰が誰の意見に耳を傾けるか？ 誰が最もよく話しをするか？ 誰が一番話をしないか？
14. 家族成員が他の家族成員に対して情緒的に親密であるか？
15. 問題行動の裏側にある家族内での対人関係上の問題は何か？
16. 成人あるいは年長の子どもたちはどのような課題や活動に彼らの時間を使っているか
17. 問題行動に対する対人関係上の結果・結末（ペイオフ）は何か
18. 変化に対し誰が支持し、誰が反対するか

Sheafor, B. W. Horejsi, C. R. & Horejsi, G. A. (2008) Techniques and Guidelines for Social Work Practice (8th edition), Mass: Allyn and Bacon.

図 1：ジェノマップ（「誰も知らない」の作品とその人間模様に関する理解）



Sheafor, B. W. Horejsi, C. R. & Horejsi, G. A. (2008) Techniques and Guidelines for Social Work Practice (8th edition), Mass: Allyn and Bacon. を参考に，筆者が課題映像作品の関係図を整理する。

その他重要な日本における参考文献は、以下のとおりである：

- | |
|---|
| ①望月嵩（1996）「子どもの社会化（pp. 108-120）」「家族のコミュニケーション（pp. 50-60）」
『家族社会学入門』培風館 |
| ②鶴養啓子（1992）「父性・母性とペアレンティング（pp. 109-118）」『家族心理学入門
（岡堂哲雄編）』培風館 |
| ③平木典子（1992）「家族の心理構造（pp. 13-24）」『家族心理学入門（岡堂哲雄編）』培風館 |
| ④柏木恵子（2003）『家族心理学』東京大学出版会 |
| ⑤倉石哲也（2004）『家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房 |

- ⑥酒井朗・菅原ますみ・青木希久代（2007）『子どもの発達危機の理解と支援』金子書房
- ⑦宮本和彦（2007）『臨床に必要な家族福祉』弘文堂
- ⑧早樫一男（2016）『対人援助職のためのジェノグラム入門』中央法規
- ⑨汐見稔幸（2008）『子育て支援の潮流と課題』ぎょうせい
- ⑩大日向雅美（2008）『地域の子育て環境づくり』ぎょうせい
- ⑪渡辺顕一郎（2009）『子ども家庭福祉の基本と実践』金子書房
- ⑫中谷奈津子（2008）『地域子育て支援と母親のエンパワーメント』大学教育出版
- ⑬河合優年・中野茂（2013）『保育の心理学』ミネルヴァ書房
- ⑭無藤隆・高橋恵子・田島信元（1998）『発達心理学入門：乳児・幼児・児童』Ⅰ
東京大学出版会
- ⑮無藤隆・高橋恵子・田島信元（1998）『発達心理学入門：青年・成人・老人』Ⅱ
東京大学出版会
- ⑯D. W. ウニコット（1990）『赤ちゃんはなぜなくの子どもと家族とまわりの世界（上）』
猪俣丈二（訳）星和書店
- ⑰D. W. ウニコット（1990）『子どもはなぜなくの子どもと家族とまわりの世界（下）』
猪俣丈二（訳）星和書店
- ⑱佐藤悦子（1988）『家族内コミュニケーション』勁草書房
- ⑲G. ベイトソン & J. ロイッシュ（1989）『コミュニケーション』佐藤悦子・ロバート・ボ
スバーグ（訳）思索社
- ⑳汐見稔幸（2007）『親子ストレス』平凡社
- ㉑船橋恵子・宮本みち子（2008）『雇用流動化のなかの家族』ミネルヴァ書房
- ㉒阿部彩（2011）『子どもの貧困（岩波新書）』岩波書店
- ㉓浅井春夫・松本伊智朗・湯澤直美（2008）『子どもの貧困』明石書店
- ㉔A. セン（2011）『貧困の克服』大石りら（訳）集英社
- ㉕佐々木政人・澁谷昌史（2013）『子ども家庭福祉』光生館
- ㉖三宅直子（1998）『あなたも書けるシナリオ術』筑摩書房
- ㉗大類雅敏（1993）『文章の作り方』ぎょうせい

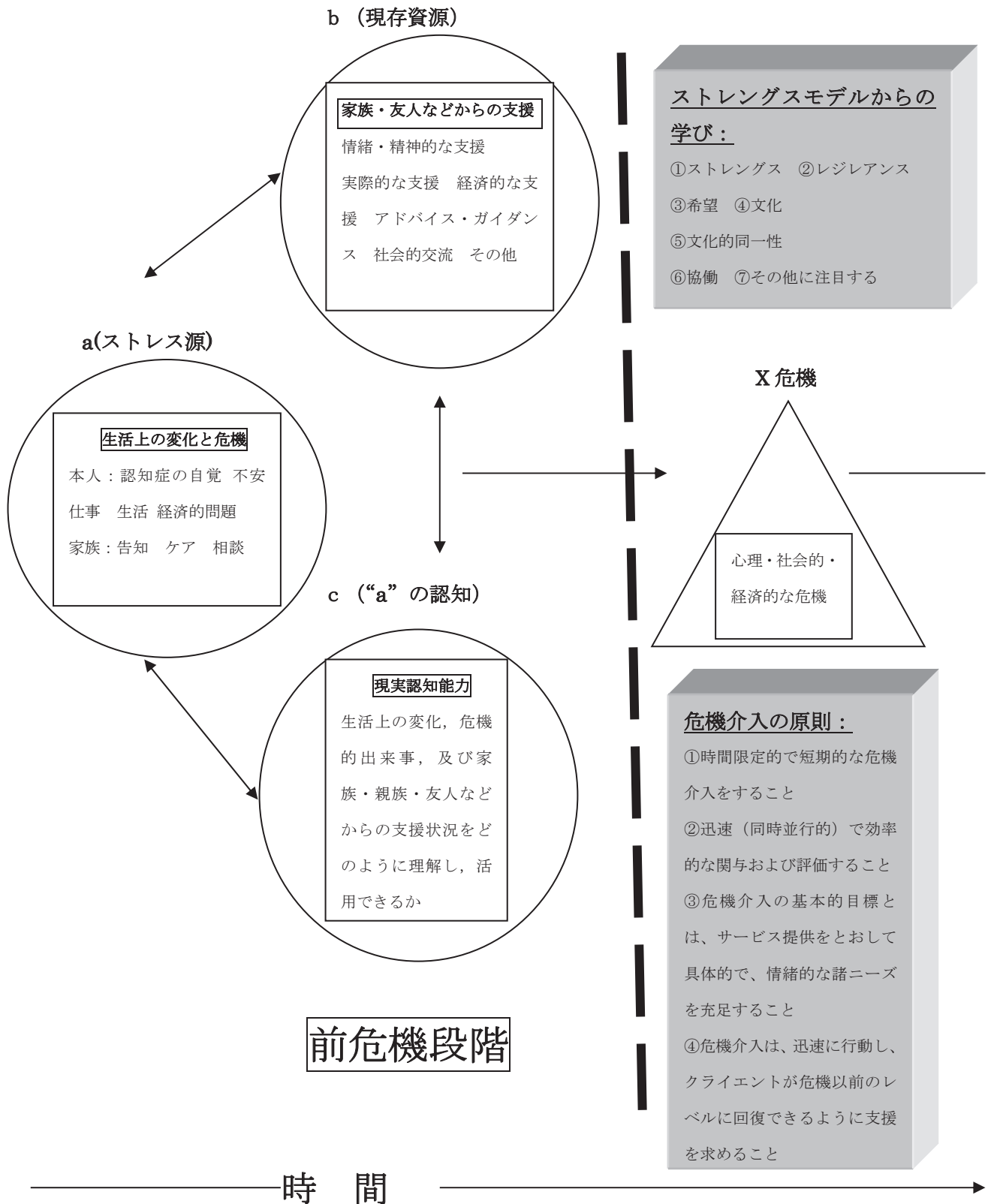
(3) パートⅢ：家族と出会う 3 (子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題)

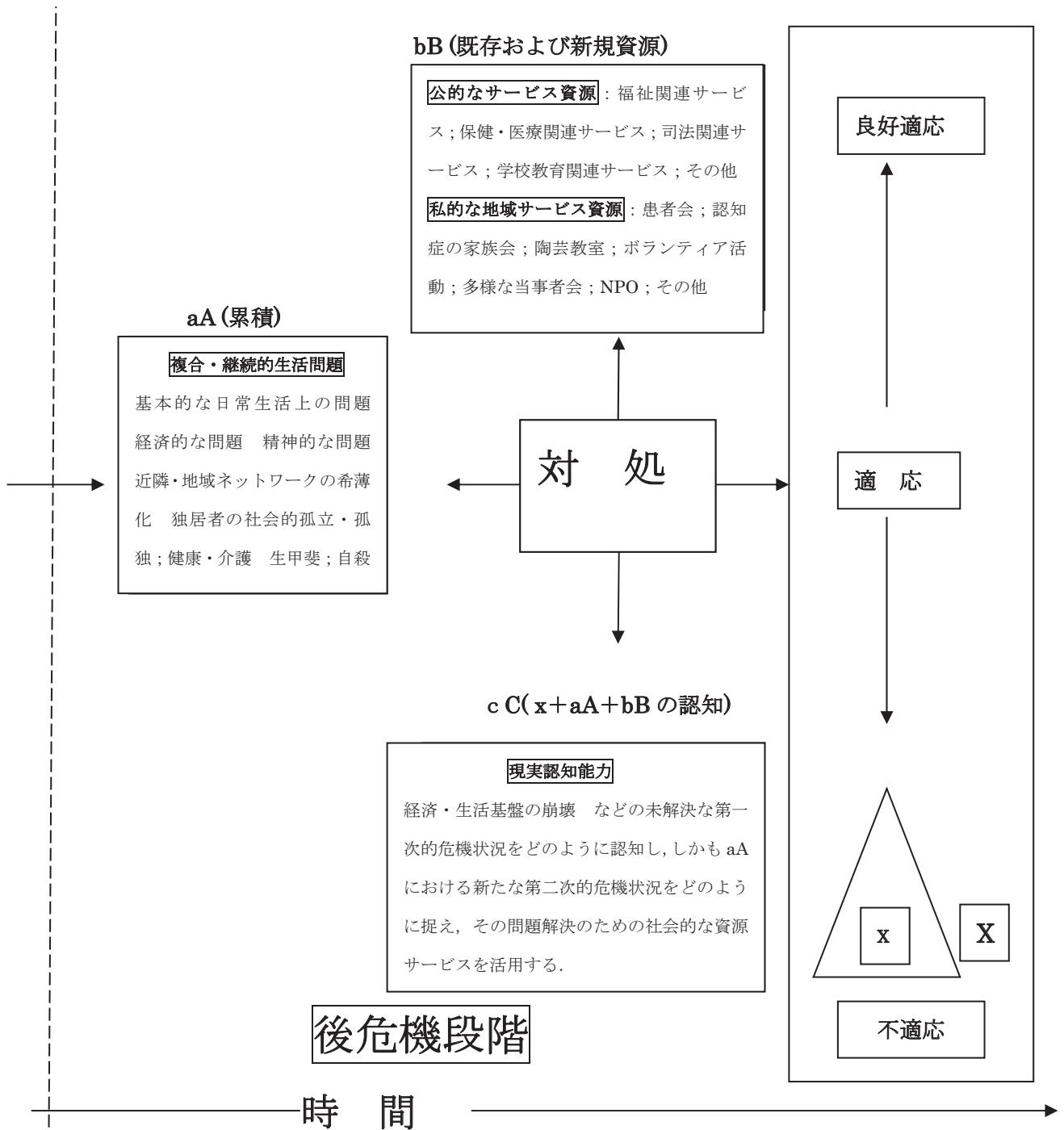
パートⅢでは、子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題の整理と理解を目標にする。人生の最終段階であり、子どもの巣立ちを喜ぶと同時に夫婦としての絆を構築する重要な段階である。家族メンバーの減少の段階をどのように体験するか？家族危機に対応する能力を最終的に試される時期の理解である。クラスで活用する映像教材は、『明日の記憶』（堤幸彦監督）である。アルツハイマー型認知症に対峙する主人公を中心に、家族、娘夫婦、会社や取引先の支援者等との人間模様は、勇気づけられる一コマである。渡辺謙と樋口可南子の絶妙のコンビの演技に引き込まれる人は多い。活用する理論は、家族ストレス論と危機理論である。その枠組み理解をクラスでは注目し、授業を展開している。

表 7：家族福祉論日程

パートⅢ 家族と出会う 3：子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題 (6月 29 日－7月 27 日)	
<p>⑬6月 29 日 家族ライフサイクルと家族課題Ⅲ (中高年期をめぐる家族危機)</p> <p>⑭7月 06 日 映像をとおして学ぶゴールデンエイジ (候補作品「明日の記憶」) ゴールデンエイジにおける家族課題を整理する：ライフサイクルマトリックス&各種のジェノグラム技法の確認をとおし、さらにそれをエコマップ等で分析する。中年期、高齢期における家族が対峙する生活上の出来事と課題を理解する。</p> <p>⑮7月 13 日 課題映像から家族問題を学ぶ：課題チャート等で、家族問題を整理し、登場人物がそれぞれ抱える人生課題と危機を体感し、それぞれの家族成員がその課題をどう感じ、それをどのように受容していくのかを整理する</p> <p>⑯7月 20 日 (自由グループ研究：班発表のための準備を各班で実施する)</p> <p>⑰7月 27 日 課題映像からの学びを発表する</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>注) 7月 27 日 (月)：グループ課題レポート及び個人課題レポート提出</p> </div> <p>ちなみに、各大学および年度によって異なるが、本科目においては、家族を中心テーマにしたドラマ作品作りをとおして、現代家族が抱える生活課題を理解することを意図してきた。ドラマ作品制作は、5－7人の小グループを作り、グループごとに学期終了時点で、1つの作品を完成させ、作品に登場する家族が織りなす家族課題・問題を支援するための方策を整理する。特に、ロールプレーイング法を用いた、家族面接の方法にも焦点を当て、家族問題の援助技法を具体的に学ぶ機会も提供した。なお、試験方法・成績評価方法は、課題発表 (ロールプレーイング)、課題レポートによって評価する。</p>

図 2：家族メンバーの健康危機と家族ストレス（前危機段階）





(資料) ①石原邦雄 (2000)『家族と生活ストレス』放送大学教育振興会 p. 100, ②MaCubbin & Patterson (1981). Systematic Assessment of Family Stress Resources and Coping. Family Social Science, University of Minnesota, p. 9, ③Langer, C. L. & Lietz, C.A. (2015) Applying Theory to Generalist Social Work Practice. New Jersey: Wiley, p. 61 & p. 235. を参考に筆者が改変・作成する.

授業終盤のパートⅢでは、以下の2つの理論的理解（家族ストレス理論&危機理論／家族2重ABC-X理論）を中心に授業を進める。今日の自然環境の変化は著しい。災害の脅威がこれまでに以上に家族生活に大きな打撃を与えている。東日本の震災、津波による大きな打撃、福島県では、原発被害による核汚染の脅威など、現在も多くの家族生活に影響を与えている。ライフラインの壊滅的な打撃、死別、離別はもとより、健康上の問題、経済的混乱の問題、支援体制の十分に整っていない状況下での対応の問題など、社会福祉領域での課題は大きい。具体的な教材として、家族ストレス論と危機理論および家族2重ABC-X理論は、前述のごとく有用な基礎理論である（図2参照）。

本セクションでは、認知症特に若年性アルツハイマーを取り上げている映像作品をとりあげている。認知症家族の出会い様々な生活危機を理解するための枠組みと具体例は図2のとおりである。授業では、前危機段階での認知の仕方、予防的対応方法の充実が重要であることを強調する。

参考文献としては、以下のとおりである：

①望月嵩（1996）「中高年期の家族（pp. 121-131）」「老年期の家族（pp. 132-142）」
「家族危機とその対応（pp. 144-152）」『家族社会学入門』培風館

②中堀仁四郎（1992）「ミドル・エイジ夫婦の心理的危機（pp. 193-206）」
『家族心理学入門（岡堂哲雄編）』培風館

③松尾恒子（1992）「老年期夫婦の心理的危機（pp. 207-218）」
『家族心理学入門（岡堂哲雄編）』培風館

④石原邦雄（2000）『家族と生活ストレス』放送大学教育振興会

⑤倉石哲也（2004）『家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

⑥藤崎宏子・三輪建二・平岡公一（2008）『ミドル期の危機と発達』金子書房

⑦宮本和彦（2007）『臨床に必要な家族福祉』弘文堂

⑧山本和郎（1986）「危機理論と危機介入の方法」『コミュニティ心理学』
東京大学出版会 pp. 57-85

⑨井口高志（2007）『認知症家族介護』東信堂

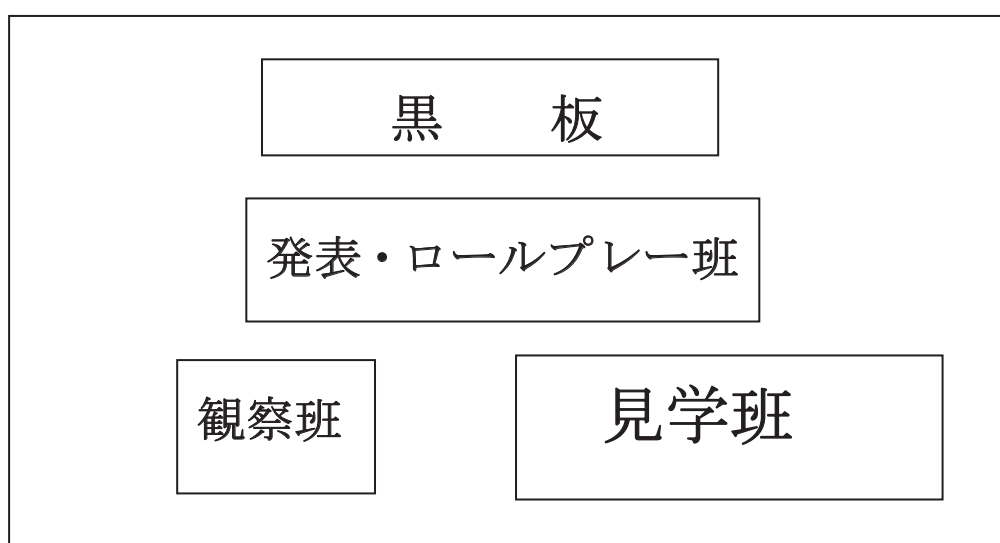
⑩三宅直子（1998）『あなたも書けるシナリオ術』筑摩書房

⑪大類雅敏（1993）『文章の作り方』ぎょうせい

3. クラス発表の方法と教室設定

クラスは前述のごとく、グループワークを中心とした教授法を採用している。まず、5人程度の班を編成し、それぞれの各班で検討した家族問題、生活上の出来事等の整理と分析をする。かつ特に注目した家族状況を家族ドラマにし、それを活用し、家族援助の基本原則及びその具体的な援助方法を提示する。援助過程の理解には、体験教育技法を用いる。脚本朗読法も適宜導入している。また、ロールプレイング場面は、条件が許せば、ビデオ収録し、フィードバック時に活用する予定である。場面設定は以下のとおりであるが、教室の関係でこうした設定ができないこともあり、臨機応変に対応する（佐々木, 2019）。

図 3：班発表のための教室レイアウト



4. 今後の課題とまとめ：授業運営及び展開上の課題

これまで、家族福祉論、家族ソーシャルワーク論の授業内容とその展開方法について論じてきた。家族問題の理解を深める方法論を導入するにあたり、下記の問題や課題等が浮上する：

- (1) 家族ライフサイクル理論、家族危機理論等の理論的紹介をどのように具体化するのか
- (2) 映像で学んだ、受け止めた問題意識をどのように援助技法やソーシャルワークアプローチに結びつけるか
- (3) 相談援助実践や福祉実習との関連性をどのように意識化し、構築するか
- (4) マッピング技法の活用方法をどのように具体化、明確化するか
- (5) 新たな視覚化マッピング技法をどのように開発するか
- (6) その他である。

家族問題はジェネリックな志向性を要請する。その問題解決に当たっても、ジェネリックな考え方やアプローチ法を必要としている。高齢者を取り巻く家族問題、障害者を取り巻く家族問題をはじめ、多様な家族問題へのアプローチ法は広範な知識と経験が必須となる。他方、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待をはじめ、家族問題は DV 問題を含む個別的配慮が必須で、かつ慎重な

対応が必要となっている。オセアニアや欧米各国で注目されて久しいファミリー・グループ・カンファランス法（FGC）は、家族システムが保持しているレジリアンスやストレングスを重視した、支援アプローチ法である。今後期待できる援助アプローチ法の一つとして、その可能性を秘めている（コノリー・マッケンジー, 2005; 高橋, 2005; 林, 2008; 林・鈴木, 2011; 佐々木・澁谷, 2013）。日本でも、家族支援のシステムの一環として、その導入が試みられているが、本支援システムに関わる専門職としての人材の育成や確保をはじめ、多くの課題が山積している。地域社会との連携を基盤とする、効果的で、大胆な問題解決システムの構築が要請されている時代となっている。なお、表8は、学期末の個人レポート課題である。履修学生が本科目の学びをつうじて家族福祉論と家族ソーシャルワーク論の重要性と意義について理解し、ソーシャルワーク実践現場への導入に関心を持って欲しい。

表8：学期末課題レポート

家族福祉論 個人課題（パートⅠ～Ⅲ）

以下の要領で、各班の「家族物語」を構築し、ライフコース上の家族課題、及び家族支援の方法を検討してください。検討した内容を整理し、各班の発表に含めると同時に、学期末の個人課題レポートを作成すること。提出レポートの様式は自由ですが、パソコンにて作成し（A4サイズ）、充実した内容に仕上げてください。

締め切り期日：2015年7月27日17時まで

提出先：佐々木研究室

課題レポートに含む内容は自由ですが、以下の事項は必ず含んでください。

1. 現在の家族状況
 - (1) 全体的な家族状況&生活課題
 - (2) ライフサイクルマトリックス/ジェノグラム/エコマップ
2. 10年後の家族状況
 - (1) 全体的な家族状況（家族状況&生活課題）：想像して物語を作成すること
 - (2) 10年後のライフサイクルマトリックス/ジェノグラム/エコマップ
 - (3) 10年後の本家族の夢&希望
3. ある日の家族のドラマ（シナリオ脚本形式）：現在の家族状況における家族ドラマ
 - (1) 家族ドラマシーン1
 - (2) 家族ドラマシーン2
4. ある日の家族のドラマ（シナリオ脚本形式）：10年後の家族状況における家族ドラマ
 - (1) 10年後の家族ドラマシーン1
 - (2) 10年後の家族ドラマシーン2
5. 課題及び支援方法（自由）
 - (1) 現在の家族状況における生活課題に対する支援方法？
 - (2) 10年後の家族状況における生活課題に対する支援方法？
 - (3) チャレンジ課題
ソーシャルワーク面接場面をドラマ化する：登場人物はソーシャルワーカー&家族メンバーあるいは地域の人々（自由に選択）
6. 家族メンバー同士の手紙（例：夫から妻への手紙；妻から夫への手紙；父から娘への手紙；父から義理の息子への手紙；母から娘への手紙，娘から父への手紙；娘から母への手紙；その他への手紙。いずれかの手紙を一通作成する）
7. 参考文献を必ず記載すること：（例）山田太一（2009）『家族ドラマ』明石書店

参考文献1 (日本)

- 阿部彩 (2011) 『子どもの貧困 (岩波新書)』 岩波書店
- 浅井春夫・松本伊智朗・湯澤直美 (2008) 『子どもの貧困』 明石書店
- 秋山邦久 (2009) 『臨床家族心理学』 福村出版
- A. E. アイビー (2010) 『マイクロカウンセリング (福原真知子他訳)』 川島書店
- 井原成男 (2009) 『ウニコットと移行対象の発達心理学』 福村出版
- 井口高志 (2007) 『認知症家族介護』 東信堂
- D.W. ウニコット (1990) 『赤ちゃんはなぜなくの: 子どもと家族とまわりの世界 (上)』
猪俣丈二 (訳) 星和書店
- D.W. ウニコット (1990) 『子どもはなぜなくの: 子どもと家族とまわりの世界 (下)』
猪俣丈二 (訳) 星和書店
- 氏原博・杉原保史 (2000) 『臨床心理学入門』 培風館
- 鶴養啓子 (1992) 「父性・母性とペアレンティング (pp. 109-118)」 『家族心理学入門
(岡堂哲雄編)』 培風館
- 岡堂哲雄 (1992) 「家族ライフコースと発達段階 (pp. 85-96)」 『家族心理学入門 (岡堂哲雄編)』
培風館
- 大日向雅美 (2008) 『地域の子育て環境づくり』 ぎょうせい
- 大類雅敏 (1993) 『文章の作り方』 ぎょうせい
- 柏木恵子 (2003) 『家族心理学』 東京大学出版会
- 加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾 (1987) 『家族精神医学3 ライフサイクルと家族の病理』 弘文堂
- 加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾 (1987) 『家族精神医学4 家族の診断と治療・家族危機』 弘文堂
- 加藤正明・藤縄昭・小此木啓吾 (1989) 『家族精神医学5 家族精神医学の基礎理論』 弘文堂
- 河合優年・中野茂 (2013) 『保育の心理学』 ミネルヴァ書房
- 木下謙治・保坂恵美子・園井ゆり (2008) 『家族社会学』 九州大学出版会
- 倉石哲也 (2004) 『家族ソーシャルワーク』 ミネルヴァ書房
- 神波幸子・佐々木政人 (2010) 「社会福祉援助技術演習の教材研究」 『平成 20-21 年度愛知淑
徳大共同研究助成報告書』 愛知淑徳大学 医療福祉学部 (現: 福祉貢献学部)
- M. コノリー & M. マッケンジー (高橋重宏監訳) (2005) 『ファミリー・グループ・
カンファレンス』 有斐閣
- M. マクゴールドリック & R. ガーソン (1988) 『ジェノグラムのはなし——家系図と家族療法』
(石川元・渋沢田鶴子訳) 東京図書
- M. マクゴールドリック, R. ガーソン, S. シュレンバーガー (2009) 『ジェノグラムの (家系図)
の臨床——家族関係の歴史に基づくアセスメントと介入』 (石川元他訳) 東京図書
- 佐々木政人・林浩康 (2005) 「解題: ファミリー・グループ・カンファレンスの挑戦:
エンパワメント・アプローチにおける 21 世紀的パラダイム」 『ファミリー・グル
ープ・カンファレンス』 (高橋重宏監訳) 有斐閣 205-237

- 佐々木政人・澁谷昌史 (2013) 『子ども家庭福祉』 光生館
- 佐々木政人 (2017) 「家族ソーシャルワークを再考する」
『愛知淑徳大学論集』第7号 愛知淑徳大学福祉貢献学部
- 佐々木政人 (2019) 「相談援助演習科目におけるシナリオ面接訓練法の開発」
『愛知淑徳大学論集』第9号 愛知淑徳大学福祉貢献学部
- 佐藤悦子 (1988) 『家族内コミュニケーション』 勁草書房
- 酒井朗・菅原ますみ・青木希久代 (2007) 『子どもの発達危機の理解と支援』 金子書房
- 汐見稔幸 (2007) 『親子ストレス』 平凡社
- 汐見稔幸 (2008) 『子育て支援の潮流と課題』 ぎょうせい
- A. セン (2011) 『貧困の克服』 大石りら (訳) 集英社
- 中堀仁四郎 (1992) 「ミドル・エイジ夫婦の心理的危機 (pp. 193-206)」
『家族心理学入門 (岡堂哲雄編)』 培風館
- 中谷奈津子 (2008) 『地域子育て支援と母親のエンパワーメント』 大学教育出版
- 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 (2008) 『家族心理学』 有斐閣
- 永田夏来・松本洋人 (2017) 『入門家族社会学』
- 平木典子 (1992) 「家族の心理構造 (pp. 13-24)」 『家族心理学入門 (岡堂哲雄編)』 培風館
- 早樫一男 (2016) 『対人援助のためのジェノグラム入門』 中央法規
- 林浩康 (2008) 『子ども虐待時代の新たな家族支援』 明石書店
- 林浩康・鈴木浩之 (2011) 『ファミリーグループ・カンファレンス入門』 明石書店
- G. ベイトソン& J. ロイツシュ (1989) 『コミュニケーション』
佐藤悦子・ロバート・ボスバーグ (訳) 思索社
- 船橋恵子・宮本みち子 (2008) 『雇用流動化のなかの家族』 ミネルヴァ書房
- 松尾恒子 (1992) 「老年期夫婦の心理的危機 (pp. 207-218)」 『家族心理学入門 (岡堂哲雄編)』
培風館
- 村山正治・中田行重 (2012) 『新しい事例検討法 PCAGIP 入門』 創元社
- 藤崎宏子・三輪建二・平岡公一 (2008) 『ミドル期の危機と発達』 金子書房
- 宮本和彦 (2007) 『臨床に必要な家族福祉』 弘文堂
- 三宅直子 (1998) 『あなたも書けるシナリオ術』 筑摩書房
- 無藤隆・高橋恵子・田島信元 (1998) 『発達心理学入門：乳児・幼児・児童』 I 東京大学出版会
- 無藤隆・高橋恵子・田島信元 (1998) 『発達心理学入門：青年・成人・老人』 II 東京大学出版会
- 望月嵩 (1996) 「現代家族の結婚と家族 (pp. 2-14)」 「結婚と家族の発達 (pp. 15-25)」
「青年期の異性交際 (pp. 74-85)」 「配偶者の選択 (pp. 86-97)」
「結婚と新婚期の家族 (pp. 98-107)」 『家族社会学入門』 培風館
- 望月嵩 (1996) 「子どもの社会化 (pp. 108-120)」 「家族のコミュニケーション (pp. 50-60)」
『家族社会学入門』 培風館

- 望月嵩（1996）「中高年期の家族（pp. 121-131）」「老年期の家族（pp. 132-142）」
「家族危機とその対応（pp. 144-152）」『家族社会学入門』培風館
- 渡辺顕一郎（2009）『子ども家庭福祉の基本と実践』金子書房
- 山本和郎（1986）「危機理論と危機介入の方法」『コミュニティ心理学』東京大学出版会
pp. 57-85
- 山田太一（1981）『岸辺のアルバム（小説）』角川書店
- 山田太一（1984）『あやちゃんの生まれた日（絵本）』福音館書店

参考文献 2 (海外)

- Connolly, M. & McKenzie, M. (1999) Effective Participatory Practice: Family Group Conferencing in Child Protection. Aldine De Gruyter.
- DeMaria, Rita, Gerald Weeks, & Larry Hof. (1999) Focused Genograms: Intergenerational Assessment of Individuals, Couples, and Families. Philadelphia: Brunner/Mazel.
- Hardy, Kenneth V. & Tracey, A. Laszoffy. (1995) "The Cultural Genogram." Journal of Marital and Family Therapy, 21, no. 3 (July 1995): 227-237.
- Hartman, A. (1979) Finding Families: An Ecological Approach to Family Assessment in Adoption. California: Sage
- Karpel, Mark. (1994) Evaluating Couples: A Handbook for Practitioners. New York: W. W. Norton.
- Kaslow, F. (1995) Projective Genogramming. Sarasota, FL: Professional Resource Press.
- Kaskow, F. , ed. (1996). Handbook of Relational Diagnosis and Dysfunctional Family Patterns. Somerset, NJ: John Wiley and Sons.
- Karpel, M. (1994) Evaluating Couples: A Handbook for Practitioners. New York: W. W. Norton.
- Langer, C. L. & Lietz, C.A. (2015) Applying Theory to Generalist Social Work Practice. New Jersey: Wiley.
- McGoldrick, Monica, Randy Gerson, & Sylvia Shellenberger (1999) Genograms, 2nd ed. New York: W. W. Norton.
- McGoldrick, Monica. (2002) "Using Genograms to Map Family Patterns. " In Social Workers' Desk Reference, edited by Albert Roberts and Gilbert Greene, 233-245. New York: Oxford University Press.
- McGoldrick, Monica, Randy Gerson, & Sueli Petry. (2008) Genograms, 3rd ed. New York: Norton.
- McGoldrick, Monica, Betty Carter, & Nydia Preto, eds. (2011) The Expanded Life Cycle: Individual, Family, and Social Perspectives, 4th ed. Upper Saddle River, NJ: Pearson.
- McGoldrick, Monica. (2011) The Genogram Journey. New York: Norton
- Rigazio-DiGilio, S. A. , Ivey, A. E. , Kunkler-Peck, K. P. & Grady, L. T. (2005) Community Genograms. New York & London: Teachers College Columbia Univ.
- Sheafor, B. W. , Horejsi, C. R. & Horejsi, G. A. (1994) Techniques and Guidelines for Social Work Practice, 3rd edition, Mass. : Allyn and Bacon.
- Sheafor, B. W. , Horejsi, C. R. & Horejsi, G. A. (2008) Techniques and Guidelines for Social Work Practice , 8th edition, Mass. : Allyn and Bacon.
- Walsh, Froma, ed. (1993) Normal Family Processes, 2nd ed. New York: Guilford.

参考文献3（教材ビデオ&DVD等）

- ゲーリー・マーシャル（1999）『カーラの結婚宣言：The Other Sister DVD 日本語・英語字幕あり』ブエナビスタホームエンタテインメント
- 是枝裕和（2005）『誰も知らない DVD』（株）バンダイビジュアル
- 堤幸彦（2006）『明日の記憶（原作：荻原浩 光文社）DVD』（株）東映
- 新藤兼人（1995）『午後の遺言状（日本）』不明
- 高橋重宏（2015）『子ども家庭福祉分野における家庭支援のあり方に関する総合的研究DVD』平成21年厚生労働科学総合研究事業研究班
- 林浩康（2016）『子ども虐待における家族支援 DVD』新宿スタジオ